

開講日	2015年春期 水曜日 18:30-20:00	講義場所	研究棟11階講義室A	定員	60名程度
名古屋市立大学大学院医学研究科 共同研究教育センター 感染制御室 室長・病院教授 中村 敦					

科目概要 および 期待される 成果	【概要】人類はある時は感染症による大打撃を受け、ある時は病原体を撲滅し、大抵は共存しながら進化、発展してきました。昔と比べ感染症の診断・治療・予防が飛躍的に進歩した現在もお、発展途上国のみならず先進国でも未だに解決できない問題、新たな問題をかかえています。医療に携わる関係者は感染症の基本的な知識とともに、つねに最新の情報に注意を払いながら、質の高い医療を提供することが求められています。本講座では、日頃から感染症診療、感染管理に関わっている多職種のメンバーが様々な感染症の情報を発信致します。 【期待される成果】感染症に関する基本的知識や新たな情報、再認識したいさまざまな問題を学ぶことにより、安心・安全で質の高い医療を提供することを目指します。
目標とする 資格	ICD制度協議会:インфекションコントロールドクター、日本感染症学会感染症専門医、日本化学療法学会:抗菌化学療法認定医/指導医・認定歯科医師/指導医・認定薬剤師、日本看護協会:感染管理認定看護師、日本病院薬剤師会:感染制御認定薬剤師、日本臨床微生物学会感染制御認定臨床微生物検査技師(ICMT)

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
L-1	1	オープニング ～11年目の感染症科医師が見てきた感染症診療の現場より～	感染症の概念と考え方、実際の診断および治療、そして患者さんのQOL・・・。 10年間に経験した症例も提示しながらみなさんと一緒に考えていきたいと思います。	4月15日	科部長 川端 厚 トヨタ記念病院 感染症科
L-2	2	肺炎の予防	高齢者肺炎の予防に、インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンの併用が推奨されています。その効果について、症例対照研究による最新の知見を報告します。	4月22日	客員研究員 鈴木 幹三 名古屋市立大学看護学部
L-3	3	結核・非結核性抗酸菌症の 病態と感染対策	空気感染する結核は、感染対策上、重要な感染症です。近年増加傾向の非結核性抗酸菌症とあわせ、抗酸菌感染症の病態と感染対策について紹介します。	5月13日	講師 伊藤 稯 名古屋市立大学大学院医学研究科 呼吸器・免疫アレルギー内科学
L-4	4	エボラウイルス感染症および 一類感染症の隔離診療	昨年よりエボラウイルス感染症が西アフリカに流行し、国際派遣された医療チームを介して米国、スペインおよび英国にも感染が波及しました。従来のエボラとは明らかに異なる規模と流行パターンを示す今回の流行は我が国への波及が十分に懸念されます。そこで、実際にWHOから派遣された経験も交えてエボラ熱の隔離診療の実態を、このウイルスの本態とともに解説します。	5月20日	教授 岡本 尚 名古屋市立大学大学院医学研究科 細胞分子生物学
L-5	5	知っておきたい薬剤耐性菌	薬剤耐性菌は複雑で無縁しいと思いませんか。高度医療が進む中で、切り札的な抗菌薬が効かないカルバペネム耐性菌や院内感染の起炎菌の問題は、感染対策において重要な課題です。耐性機序から、実際の症例まで紹介します。	5月27日	部長 柴田 尚宏 東濃厚生病院 呼吸器内科
L-6	6	ウイルス性肝炎 (A・B・C・D・E)	ウイルス肝炎の治療、特にC型肝炎治療は現在大きく変わりつつあります。様々な肝炎ウイルスの特徴とその対策、さらには治療法もわかりやすく説明します。	6月3日	准教授 野尻 俊輔 名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学
L-7	7	周術期感染症・腹腔感染症	周術期感染症(創感染や縫合不全等)、腹腔感染症(虫垂炎や胆嚢炎等)は、外科には避けて通れない永遠のテーマです。知識を共有して、外科医と一丸となって戦いましょう！	6月10日	講師 若杉 健弘 名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器外科
L-8	8	クロストリジウム・ディフィシル感 染症ってなあに？	偽膜性腸炎の原因菌であるクロストリジウム・ディフィシルは、いまやMRSAに比肩する院内感染菌です。基本から最新の知見まで、クロストリジウム・ディフィシル感染症について紹介します。	6月17日	室長・病院教授 中村 敦 名古屋市立大学大学院医学研究科 共同研究教育センター 感染制御室
L-9	9	重症感染症の診療と 集中治療	重症感染症は炎症と凝固のカスケードが負の連鎖を起こして進行し、感染巣のコントロールを行ったにもかかわらず多臓器不全へ陥ってしまうことも少なくありません。重症感染症患者の救命に重要な、感染症に対する治療方針およびサポート療法についてご紹介します。	6月24日	准教授 山下 千鶴 藤田保健衛生大学病院 麻酔科・ICU(集中治療部)
L-10	10	感染症・院内感染対策における 微生物検査室(臨床検査技師) の役割	早期に病原性微生物の検出・特定を行うことは、感染症・院内感染対策においては必須であり重要です。これらの情報の発信源ともなる微生物検査室の役割と、多様化する耐性菌・院内感染原因菌の検出検査方法までをご紹介します。	7月1日	微生物検査係長 畑 七奈子 名古屋市立大学大学病院 中央臨床検査部
L-11	11	院内感染対策における看護師 の役割	院内感染予防のために、看護師がどのような視点を持って、どのように活動を行っているのかを、活動の実態を紹介しながらお話しします。	7月8日	感染管理認定看護師 田上 由紀子 名古屋市立大学大学病院看護部
L-12	12	サルでも分かるインフルエンザ のアウトブレイク	アウトブレイク対応には、ICTの専門的視点と多職種・多部門による多角的視点や組織的対応が不可欠です。どの施設でも経験するインフルエンザのアウトブレイクを基に、アウトブレイク対応のステップを確認しましょう。	7月15日	感染管理認定看護師 木下 輝美 藤田保健衛生大学病院 医療の質・安全対策部安全管理室
L-13	13	抗菌薬・消毒薬 こんな使い方したら、ダメよ～！ ダメダメ！！	抗菌薬、消毒薬を正しく使えますか？PK/PD理論やTDMなどの基本的な知識をメインに解説します。抗菌薬、消毒薬を最大限に活用して、感染症に立ち向かいましょう。	7月22日	薬剤師 朝岡 みなみ 名古屋市立大学病院 薬剤部
L-14	14	薬学的視点からみた 感染症・院内感染対策の実際	ICTラウンドでの薬学的チェックポイント、抗菌薬適正使用におけるAntimicrobial Stewardshipの実践といった感染症・院内感染対策の実際についてお話しします。本講義は、職種を問わず現場で生きる知識となるよう、背景知識も詳しく解説します。	7月29日	抗菌化学療法認定薬剤師 塩田 有史 名古屋市立大学病院 薬剤部/感染制御室
L-15	15	感染管理・教育の国際交流、 および講座の復習	院内感染の予防・管理は地域や医療施設の規模、医療の質による差異はあるものの、共通した重要な課題です。私たちの国際交流体験を紹介します。最後に、恒例の復習編で習熟度をチェックしましょう。	8月5日	室長・病院教授 中村 敦 名古屋市立大学大学院医学研究科 共同研究教育センター 感染制御室